

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A17	取組 名称	琴引浜の動植物の分布と特色に関する研究
研究代表者:	生命環境学部 (研究科)	職・氏名:	准教授・中尾史郎
研究担当者:	京都府立大学 (中尾史郎、大迫敬義、糟谷信彦 (敬称略)) 外部分担者・協力者 (郷右近勝夫氏、宮永龍一氏、久保藤夫氏、清水 晃氏 ほか)		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府京丹後市教育委員会、琴引浜鳴き砂文化館		
<b>【研究活動の要約】</b>			
京丹後市琴引浜における動植物の分布と生育・生息の状況を調査して、その特色についての理解、および保全に必要な基礎的な情報を収集し、地域 (京丹後市) において成果報告会を開催した。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 京都府改訂版レッドリスト準絶滅危惧種であるピロードテンツキの個体群において、砂の流失により根茎が露出し、枯死ないし衰弱している個体が多いという問題を認めた。</li> <li>* 湿地性植物である絶滅寸前種カモノハシと海浜植物ケカモノハシが混在することを認めた。</li> <li>* 明治以降、植生被圧が顕在化していることを写真類等過去の記録と対比し、植生の現状から、マツ林の保全には選択的除伐による育成が有効であろうと考えた。</li> <li>* 有剣ハチ類には環境省および他県のレッドリスト掲載種6種、およびクロクモバチ科の未記載種の生息を確認した。</li> <li>* 海浜生息種12種を含む有剣ハチ類約58種が生息することを認め、日本有数のハチ相を有することを確認した。</li> <li>* 本州各地のハマボウフウの訪花昆虫相との比較から、琴引浜の西部は特有のハチ相を擁することを示した。</li> </ul>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
京都府立大学学術報告 生命環境学 66号、25-29ページ、閲覧：大学図書館およびWebで可 京都新聞 2015年2月18日朝刊、および3月15日朝刊：各所のアーカイブで閲覧可 丹後日日新聞 2015年3月13日版 など：各所のアーカイブで閲覧可 H26年7月26日：弘前大学 白神自然観察園、日本昆虫学会東北支部会第61回大会 (約50名) H27年3月14日：京丹後市鳴き砂文化館、ACTR 成果報告会 (約50名)			
<b>【お問い合わせ先】</b> 生命環境学部 (研究科) 応用昆虫学研究室 准教授・中尾史郎			
Tel: 075-703-5617		E-mail: nakao@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)



写真. 現地における植生調査と植物調査の状況



写真. 京丹後市鳴き砂文化館における成果報告会の状況



写真. 研究成果とその報告会に関する新聞記事 (京都新聞朝刊)